

# ザンビア共和国における家庭科教育 — 小学校における実践を中心に —

表 真 美

## 1. 研究の背景と目的

### (1) ザンビア共和国について

ザンビア共和国は、日本の約2倍の国土に2,000万人が暮らす、アフリカ南部の国である。首都はルサカ、部族は73部族（トンガ系、ニャンジャ系、ベンバ系、ルンダ系）を数え、公用語は英語とベンバ語・ニャンジャ語・トンガ語である。20世紀初頭に「北ローデシア」としてイギリス南アフリカ会社に支配され、1924年にはイギリスの直轄植民地となり、1964年にザンビア共和国として独立を果たした。カウンダ大統領が長く統治したが、1990年には複数政党制となり、2021年に第7代大統領ヒチレマ氏が就任した。位置的にはアンゴラ、コンゴ、タンザニア、マラウイ、ジンバブエ、モザンビーク、ボツワナ、ナミビアの8か国に囲まれる内陸国である。主要産業は、鉱業（銅、コバルト等）、農業（トウモロコシ、綿花、タバコ、大豆）、観光（ビクトリアフォールズ等）である<sup>1)</sup>。戦争や紛争の歴史を持たない、穏やかな国民性の国である。

### (2) ザンビアの教育制度

ザンビアの義務教育は、7歳から

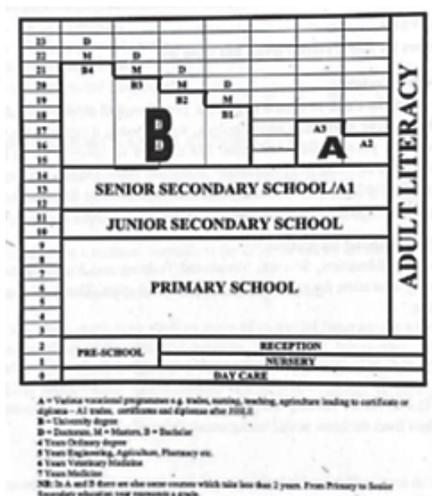


図1 ザンビアの学校制度<sup>2)</sup>

始まる初等教育（小学校）7年、中等教育（中学校）5年の計12年である。中等教育は、前期2年間、後期は3年間、その後、種々の高等教育が設置されている。Zambia Education Curriculum Framework (p.26)に掲載された学校系統図を示す<sup>2)</sup>(図1)。

ザンビアでは公用語の英語の他に73の民族語が話されているが、学校教育では小学5年生時に母国語から英語での授業に切り替わる。

### (3) ザンビア共和国の宗教

外務省の基礎データでは<sup>3)</sup>、ザンビアの宗教は8割近くがキリスト教とされ、アメリカのシンクタンクによると2010年時点で人口の97%がキリスト教を信仰しているというデータもあり、キリスト教国家である。布教が始まったのは19世紀末期であり、植民地時代にはさらなるキリスト教化が進められた。キリスト教は、学校や診療所など教育・福祉面に貢献した。

### (4) ザンビア共和国の教育に関する先行研究

これまでのザンビアの教育に関する研究・報告は、教師教育に関する研究<sup>4)</sup>のほか、就学前教育に関する研究<sup>5)</sup>、数学教育に関する研究<sup>6)</sup>、理数教育に関する研究<sup>7)</sup>などが見られる。理数教育に関して、同じ研究者が何度か報告を重ねる例が多く、全体数は限られている。ザンビア共和国における教育が我が国に広く紹介されているとは言えず、とりわけ家庭科教育については、まったく報告がなく、学校教育への家庭科設置の有無さえも知られていなかったのが現状である。

### (5) 研究の目的

本研究は、インターネット上にも公開されることなく、情報が極めて少ないアフリカ・ザンビア共和国の最近の教育の現状とともに、小学校における教育、および家庭科の授業実践の状況を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究の方法

### (1) 研究協力者

本研究の協力者はザンビア大学学校教育学部教員の Malama Esther 氏である。氏とは、2022年にアメリカ・アトランタにて開催された IFHE(International Federation for Home Economics) のセッションで出会い、同国では家庭科が非常に重視されているとの情報を得て、ザンビア共和国の家庭科に関する調査への協力を依頼した。同国の教育、および家庭科教育に関する資料は Esther 氏を通じて入手した。学校訪問の調整はすべて Esther 氏が行い、訪問調査にも同行した。

### (2) ザンビア共和国への訪問調査

2023年9月5日から9月15日にザンビア共和国に渡航、ザンビア大学学校教育学部を訪問、ナショナルカリキュラムおよび中学校のナショナル家庭科シラバスを入手した。

9月6日から12日に、首都ルサカにおける小・中学校、のべ7校を訪問、9単位時間の授業を観察した(表1)。

表1 訪問した小・中学校

No.	訪問日	学校名	種別	生徒数	教員数	授業の学年	授業テーマ	時間
1	6 (wed)	Kabulonga Gairis Scondary School	Secondary	1800	94	9	国際基準取扱い絵表示	40
2	6 (wed)	Twin Palm Scondary School	Secondary	1800	82	9	性教育：子供の間隔について	40
3	6 (wed)	Chaisa Combined School	Primary	2800(80 /1class)	52	6	衛生：トイレについて	40
4	7 (Thu)	Emmasdale School	Primary- Secondary	3098 (1-9)	52	9	ニードルワーク：理論	40
5	7 (Thu)	New Northmead School	Primary- Secondary	2400 (1-9)	55	9	ホームマネージメント：ホーム デコレーション	40×2
6	8 (Fri)	Emmasdale School	Primary- Secondary	3098 (1-9)	52	9	ニードルワーク：実習	40×2
7	12 (Tue)	Woodland Primary School	Primary	1400	52	5	体の特徴	40

### (3) 小学校への訪問

2023年9月6日(水)の午後に Chaisa Combined School、9月12日(火)午前 Woodland Primary School を訪問し、前者は6年生、後者は5年生の家庭科の授業各々1単位時間を観察した。

## 3. 研究結果

### (1) ザンビア共和国の学校教育

#### 1) カリキュラムフレームワーク<sup>8)</sup>

ザンビアのカリキュラムフレームワークは2015年に改訂されたものである。研究協力者の Malama Esther 氏も持ち合わせておらず、ザンビア大学学校教育学部他の教員が持っていたものを複写させて頂いた。

A4判63ページ、5章立てであり、内容は、1章：教育カリキュラムフレームワーク、2章：ポリシーと原則、第3章：国家的懸案事項（横断的テーマ）、4章：カリキュラムの構造、5章：効果的なカリキュラム実施戦略となっている。

1章にはカリキュラムフレームワーク見直しの原則が説明され、結論として、価値、ビジョン、キーコンピテンス、教科/学習領域がカリキュラムフレームワークにつながる図が示されていた（The Curriculum Review Conceptual Framework vi）（図2）。

4章にはカリキュラムの構造として、幼児教育、初等教育、中等教育、高等教育のカリキュラムについて詳細に述べられていた。以下、初等教育に重点をおいて説明し、系統性を知るために中等教育についても、概観する。

#### 2) 初等教育（1～7年生）<sup>9)</sup>

1年生で提供される教育は、学習者が2年生での学習を吸収するために必要な最初の能力レベルを提供することを目的としている。そのため、1年生での指導と学習は、すべての学習分野における事前学習スキルを与えることから始まる。2年生では、以前に達成した読み書き能力と基本的な数学的スキルのレ

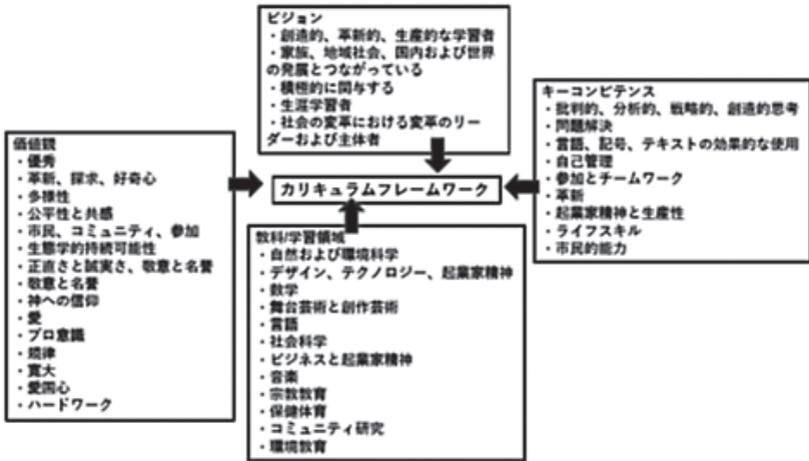


図2 カリキュラムフレームワーク2015見直しの原則

ベルを発展させ、定着させることに重点が置かれる。初等教育カリキュラムは中学校教育の基礎を形成するものでなければならない。

小学校の学習者にとって主要な能力は、1)英語およびザンビア語または手話の読み書き能力、2)計算スキル、3)情報通信技術のスキル、4)ライフスキルであり、達成すべきレベルは、学校に通い続けたときに、さらなる教育を受けるために十分な基礎が得られるようなものでなければならない。必修教科は、1～4年生の低学年は1)識字能力と言語、または手話または点字、2)統合科学、3)社会科学、4)数学、5)クリエイティブとテクノロジー学習 (CTS)、また、5～7年生の高学年は、1)識字能力と言語、または手話または点字、2)統合科学、3)社会科学、4)数学、5)表現芸術、6)技術学習、7)家庭科である。

2015年の小学校カリキュラムの変更点が、6点示されていた(表2)。2・3の説明から、低学年の識字が未だ不十分であり、教育省が教育の質を高めようと奮闘する様子をうかがうことができる。4については、後述する中等教育において、2つのキャリアパスに分かれることにつながっている。また、5の

表2 2015年の小学校カリキュラムの変更点

1. 1年生から4年生までのすべての学習領域における指導言語は使い慣れた言語となり、5年生以上では英語が公式の指導言語となる。
2. 低学年における読み書き指導のアプローチに変化が生じている。省が実施した調査や教育基準担当官によるモニタリング報告書から、公立学校やコミュニティスクールではほとんど学習が行われていないことが明らかになっている。学習者が教科を学習できないのは、多くの学習者が読み書きができないからである。1990年代後半から実施されている「読み書きへの新ブレークスルー(NBTL)」プログラムは、学習者に読み書き能力を身につけさせるという点では大きな成果を上げていない。このため、省はアプローチを見直し、低学年読み書きプログラム(EGLP)と呼ばれる新しいアプローチを考案した。このアプローチは、地元および国際的な読み書き専門家と共同で開発されており、頭音、音声学、語法、文法、理解、書き方、句読法、流暢さに基づく国際的に認められた読み書き指導方法に従っている。
3. 学習者は、適切な介入を確立するために、1年生と4年生で読み書きと計算の能力テストを受ける。1年生と4年生のカリキュラムでは、評価を受けるために学習者が習得すべき主要な能力を規定する。これらは、1年生と4年生で利用できる多くの特定の成果から選択される。当初、能力テストは中央で設定されるが、地区によって管理される。
4. 小学校レベルでは、学習者は自分の能力、興味、才能を発見する機会が与えられる。これは、すべての小学校学習者が学術的および技術的な2つのキャリアパスすべてに触れることを意味する。
5. 小学校低学年では5つの学習分野が提供され、小学校高学年では7つの学習分野が提供される。クリエイティブとテクノロジー学習は、1年生から4年生までの技術研究、家庭科、表現芸術の主要内容で構成される。
6. 特別な教育ニーズを持つ学習者に対応するために、識字と言語の分野で2つの新しいオプションも導入された。

特別なニーズを持つ学習者に対しての規定を含むことが当該フレームワークの特徴の1つと言える。

特別に支援が必要な学習者の必修教科は1)表現芸術、2)読み書きと言語または手話または点字、3)数学、4)日常生活のための活動、5)テクノロジー学習とされている。各々の週最低時間は3、5、5、5、3時間、合計時間は20時間で、他の学習者と比べ、半分以下となっている。

小学校の低学年の1単位時間は40分、高学年は45分である。各々の教科の週

表3 小学校における必修教科の週最低時間

学習領域（1～4年生）		時間	時間数
1	識字能力と言語、または手話、または点字	6時間30分	13
2	統合科学	5時間	10
3	社会科	2時間30分	5
4	数学	2時間30分	5
5	クリエイティブとテクノロジー学習(CTS)	4時間30分	9
計		21時間	42
学習領域（5～7年生）		時間	時間数
1	英語	4時間	6
2	数学	4時間40分	7
3	統合科学	4時間	6
4	ザンビア語	4時間	6
5	表現芸術	2時間40分	4
6	社会科学	3時間20分	5
7	技術学習	2時間40分	4
8	家庭科	2時間40分	4
計		28時間	42
Zambia Education Curriculum Framework2015より筆者作成			

最低時間を表に示した（表3）。

小学校低学年には必修教科に「家庭科」は含まれていないが、芸術・技術系の学習教科である「クリエイティブとテクノロジー学習（CTS）」に家庭科が含まれている。高学年には、必修教科として家庭科が含まれ、表現芸術、技術学習とならんで、週最低時間4時間とされている。

### 3) 前期中等教育（8～9年生）<sup>10)</sup>

中学校のカリキュラムは、その後の高等学校での正式な学習に必要な知識、スキル、価値観を習得するための基礎となる。このレベルのカリキュラムは、学習者に、学術教育を継続するための知識技能、あるいは就職前スキルとライフスキルを追求するための知識技能を身につけさせる。また、中学校レベルの学習者にとって重要な能力は、1)コミュニケーションスキル(口頭および書面)、2)数学的スキル、3)情報通信技術のスキル、4)科学的スキル、5)職業訓練

前およびライフスキルである。

中学校には、「アカデミック」と「職業」の2つのキャリアパスがある。アカデミックキャリアパスは、学問に対する情熱とその方向でのキャリアを望む学習者を対象としている。職業キャリアパスは、技術的および実践的な仕事に志望と興味を持つ学習者を対象としている。アカデミックキャリアパスの必修教科は1) ビジネススタディーズ (起業家精神を含む)、2) 英語、3) コンピュータスタディーズ、4) 統合科学、5) 社会科学、6) 数学、7) 宗教教育、8) ザンビア語、選択外国語は1) フランス語、2) 中国語、3) ポルトガル語である。職業キャリアパスは5つのコースを提供している。学習者は彼らの希望や志望に従って、1つのコースを選択する。5つのコースは、1) 農業、2) テクノロジー、3) パフォーミングとクリエイティブアート (PCA)、4) 体育教育とスポーツ (PES)、5) 家庭科とホスピタリティ (HEH) である。学習者を各々のキャリアパスに配置する場合、学校は入学後最初の1ヶ月後に学習者を評価する。教えることのできる教師の有無にかかわらず、学習者の興味を考慮する必要がある。

#### 4) 後期中等教育 (10~12年生)<sup>11)</sup>

高等学校の教育は10年生から12年生まで提供される。高等学校の学習者は、高等教育および社会に出るための十分な準備ができてることが期待される。国の発展に積極的に貢献し、成人の役割を担うために、すべての学習者が起業家としてのスキルを身につけることが強く望まれている。

普通レベルの学校認定試験または一般教育認定試験につながる後期中等学校プログラムの期間は3年間とする。ただし、外部受験者および代替学習プログラムの受験者の期間は、それらのプログラムを提供する機関によって規定されるが、3年以上とする。高等学校では、高等教育機関が入学のために要求する最低限の資格を考慮に入れる。高等学校レベルでの指導の内容、構造、プロセス、および課外活動の範囲はすべて、責任感があり、十分な教育を受け、以下

のことができる学習者の育成に向けられている必要がある。1)話し言葉と書き言葉の両方で効果的にコミュニケーションをとる、2)数学的、科学的、技術的概念を理解し、解釈し、応用する、3)職業スキルやライフスキルの知識とスキル、前向きな姿勢、価値観を実生活に応用する。高等学校では、アカデミックキャリアパスは、3コース、職業キャリアパスは、前期中等教育と同じ5コースが設けられている。

## (2) 家庭科の歴史とキリスト教

ザンビアでは、小学校の低学年から、芸術・技術系教科に家庭科の内容が含まれ、小学校高学年では家庭科が必修教科として設置され、そして中等教育の職業キャリアパスには、家庭科とホスピタリティーコースが設けられていた。家庭科教育に力が入れているといえよう。

研究協力者 Malama Esther 氏への聞き取り調査によると、アメリカ、イギリスから来たキリスト教布教者をたちが、衛生、料理、クラフト、ニードルワークなどをザンビアの人々に教えた。1950年、Mable Shaw というイギリス人女性で、医師、キリスト教布教者が、北ザンビアに Mbreshi School という女性向けの学校を建て、ドメスティックサイエンスを教えたのが、ザンビアの家庭科の始まりである。当初在籍した5人の女子生徒のうちの一は初代大統領であるカウンダ氏の母であり、エリート女性のための学校であったといえる。教育の歴史については、Peter Snelson の著書『Education development in northern Rhodesia 1883年～1945年』(1974) が参考になる、とのことであった。

1964年の独立後、小学校で家庭科が教えられるようになった。1989年以降、Coseo College において家庭科教師のトレーニングがされるようになった。初めは Domestic Science だったが、その後、現在の Home Economics の名称に変更された。1980年代に4人、カナダの家政学会に人を派遣した。そのうちの一人が1997年、ザンビア大学学校教育学部に家政学コースを開いた、とのことであった。

キリスト教布教者が家庭科を伝え、アフリカ諸国に広めたことは、他のアフ

リカ諸国と歴史が類似している。南アフリカやスワジランド（現エスワティニ王国）における家庭科も、カナダ家政学会と協力して教育を行っていた歴史をもつ。

### （3）ナショナル家庭科シラバス<sup>12)</sup>

ザンビアの教育・科学・職業訓練・幼児教育省から2013年に提出された小学校の家庭科シラバス（5～7年生）をもとに、小学校における家庭科の領域、目的や教育方法について明らかにする。

#### 1) 小学校家庭科の領域と目的

家庭科には、食品と栄養、家庭管理、健康教育、裁縫と工芸の領域が組み込まれている。ホスピタリティ、ジェンダー、人権、汚染、起業家精神、HIVとエイズに関する新しい概念も含まれている。

家庭科のカリキュラムは、効果的に実施されれば中学校の強固な基盤を確立できる、教育のための概念、スキル、価値観の明確なガイドラインを提供することを主な目的としている。

したがって、このカリキュラムの目的は次の通りである。

児童が自立・自己を信頼し、一般的な生活を送ることができるように準備すること。

児童が家族、親戚、地域社会、および他の民族グループに対して前向きな態度を身に付けられるよう支援すること。

児童が実用的なスキルと知識を習得し身に付けられるよう支援すること。

家庭経済の学問としての重要性と人生における役割に関する知識と前向きな態度を促進すること。

#### 2) 教育方法

学校での学習は、学習者が以前に家族、コミュニティ、環境との関わりで得た知識と経験に基づいている必要がある。個別のニーズ、学習のペース、人生

経験、能力を持つ各学習者には、これに対応する以下のような多様で柔軟な方法を使う必要がある。ペアおよびグループワーク、個人ワーク、フィールドトリップ法、プロジェクト法、ディスカッション法、ゲストスピーカー、デモンストレーション法、チームティーチング。

#### (4) 小学校への訪問

##### 1) ザンビアの小学校・中学校

ザンビアでは、一校の児童・生徒数は多く、すべての学校で午前と午後で児童・生徒が入れ替わっていた。1クラスの人数が多く、60名以上のクラスで一人の教師が授業を行う例もあった。小学校（1～7年生）のみ、中学校（8～9年生）のみの学校と、小学校と中学校が併設されている（1～9年生）学校があった。

家庭科の授業では、小学校では担任の教師が、中学校では家庭科担当教師が授業を行っていた。生徒は熱心に学習に取り組んでいた。中学校では、実習やグループ学習も行われていた。授業を担当する教師は、授業計画案を作成して主任やシニア教師に提出し、サインや印鑑を得る必要があった。

##### 2) Chaisa Combined School への訪問

6年生を対象とし、「衛生、トイレ」をテーマとした、男性担任教師による



写真1 Chaisa Combined School と授業風景

一斉授業を観察した。教師が児童に対し、「トイレにはどのような種類があるか」「不潔にしていたらどうなるか」などについて、教師が発問し、児童が挙手して発言、教師が板書したものを児童がノートに写していた。

授業担当者による授業計画を表に示した(表4)。現在、日本の家庭科教育には「衛生」「健康教育」の領域は含まれていないが、第2次世界大戦前の家事科では、同様の内容が教えられていた。家庭科教育は日々の暮らしを送るために必要な、知識や技能を修得する教科である。家庭科の内容は、地域の生活実態に影響を受けることが改めて確認された。

### 3) Woodland Primary School への訪問

5年生を対象とした、「体の特徴」をテーマとした授業を観察した。

授業観察による授業の経過(表5)と授業計画(表6)を見比べると、計画に忠実に授業が進行していることがわかる。クラスの人数は多いが私語はなく、生徒は教師の話に耳を傾け、教師からの指示に即座に従っていた。教師は一人一人の生徒のノートを確認し赤字でチェック、コメントを書き加えていた(写真2)。

### 4) 観察した授業とナショナル家庭科シラバス

今回、小学校で観察させて頂いた授業は、2件とも健康教育の領域に含まれる授業であった。

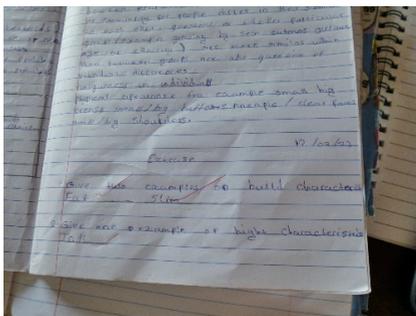


写真2 Woodland Primary School の授業風景と生徒のノート

表4 「衛生・トイレ」授業の家庭科指導計画

名前	: Zulu Martin	
教科	: 家庭科	時間 : 40分
テーマ	: 衛生 サブテーマ: トイレ	時刻 : 12:40
教材	: ティッシュ、掃除用品	クラス: 6ABC
参考	: Longman PPLs BK6 Pg122	
目標	: 一衛生を定義する 一地域にみられるトイレのタイプを確認する 一各自で練習課題を書く	
根拠	: 学習者はトイレの様々な用途を認識できる。トイレは人間の排泄物、つまり糞便を排出するために作られている。痰も人間の排泄物である。	
<b>授業の経過</b>		
<b>【第1段階】</b>		
授業の内容	: Sanitation 衛生の定義一衛生とは、施設設備によって健康を促進する衛生的な手段を指す トイレや排水設備など、人間の排泄物を安全に処分するためのサービス	
教師の活動	: クラスディスカッション—教師が児童に質問「衛生とは何ですか？なぜ衛生ですか？」 人間にとっても環境にとっても衛生はとても重要である。糞便や尿などの人間の排泄物をどこに処分するかを学習者に尋ねる	
学習者の活動	: 自然に質問を受け入れる	
<b>【第2段階】</b>		
授業の内容	: 我々の地域、都市部、田舎でみられるトイレを確認する	
教師の活動	: グループワーク—教師は学習者のグループに都市部でみられるトイレの種類を書き出すように求める、例えば手動水洗トイレ (Water Closet Toilets)、自動水洗トイレ (Flush Toilets)、汲み取り式トイレ (Pit Latrines) など	
学習者の活動	: 学習者はグループディスカッションを行う—汲み取り式トイレがどこにあり、どの様につくられるのか、自動水洗トイレはどの様につくられどこにあるのか。 学習者はそのような質問に対する例を挙げる	
<b>【第3段階】</b>		
授業の内容	: 個人の仕事—トイレの衛生に関する内容を書く	
教師の活動	: クラスの各々の学習者に、黒板の内容を同じように書き写すことを指示する	
学習者の活動	: 黒板の内容を書き写す	
授業の結論	: トイレは排出物を処理するため、人間にとって重要である。	
宿題	: 学習者は家に帰り、汲み取り式トイレと自動水洗トイレの掃除に必要な用具をリストアップする	

授業者自筆の文書を元に筆者作成

先述の小学校ナショナル家庭科シラバスの5年生の内容には、5年生の健康教育の冒頭に「5.9 人間の発達」「5.9.1 身体の独自性」との内容がある。その詳細は、「5.9.1.1 さまざまな個人の身体の独自性を認識する」知識として「個人の独自性：身体的外観、例：小さい／大きい胸、小さい／大きいお尻、にきび／きれいな顔、小さい／大きい肩」、技能として「身体の独自性」、価値として「身体的外観への認識、自分自身への感謝」とあった<sup>10)</sup>。訪問したのは、9月に新学年が始まって数日の時期であり、シラバスに忠実に授業計画が作成されていることが明らかとなった。

表5 「体の特徴」授業の経過

13:10	(教師) 3人の児童を前に立たせ、「皆、見た目が違います。背の高さ、大きさなど」
13:15	(児童) 配られた教科書をみる、5冊しか教科書がないので、教科書があるところに皆が集まるがあまり本が見れないので、各自の席に戻る。(教師)「3人の見た目の特徴は何ですか？ 大きいか小さいか、背が高いか低いか、髪の毛は、黒、ブロンズ、ホワイト？」
13:20	(教師)「見た目の違いを話し合しましょう。紙に特徴をつくるものを書きましょう。例えば、太っている、痩せているなど。」 (児童) グループワーク、話し合う (児童) 見た目の違いを各自紙に書く
13:25	(教師) 紙に書いたものを集める。 (児童) 元の席に戻って、話し合ったことを皆の前で発表する
13:30	(教師) それではノートに写しましょう。 Exercise (教師による板書) 1. Give two Examples on build characteristics. 2. Give one example on height characteristics. 3. Give one example on complexion characteristics. 4. Give one example on hair characteristics. (児童) 各々ノートに書きこむ (教師) 赤ペンで評価
13:46	(児童) 各課題の答えを黒板に書きに行く (教師) 「正しいですか？」 (児童) 手をたたく
授業終了	

表6 「体の特徴」授業の家庭科指導計画

名前	: Mrs. WT Mundia	日にち	: 2023年9月12日
学年	: 5	時間	: 40分
クラス	: A B C D		
教科	: 家庭科		
テーマ	: 人間発達		
サブテーマ	: 体の特徴		
参考	: Longman pupils Book p.51		
教材	: チョークと黒板		
授業の成果	1. いくつかの身体的特徴をあげる 2. 身体の特徴を定義する 3. 与えられた質問に困難なく回答する		
理由	この授業では、例えば、骨格、身長、肌の色、髪の毛など人間の発達における身体的特徴について学ぶ。この授業で、学取捨は身体的特徴を理解する。方法は、デモンストレーション、ディスカッション、質疑応答、グループワーク、個人ワークである。この授業は、シリーズの2回目の授業である。		
<b>授業の経過</b>			
【導入】	教師の活動: 教師は前回の授業、例えば体の見た目についての質問により導入を行う。 学習者の活動: 学習者は例えば、小さい/大きいなどの体の特徴をあげる 方法: 質疑応答		
【展開】	教師の活動: 教師は身体的特徴について説明する 一人を見た時に最初に目にするものは髪の毛、服装、鼻、または体型、これらはすべて身体的特徴の例である。 一身体的特徴の良い例を得るには、その人の顔を見て、どのくらい的身長か、何を着ているか、その他の多くのことをみる。 学習者の活動: 一学習者は注意深く聴き、教師の質問のたびに答える 一学習者は自身の知る身体的特徴の例をあげる 一学習者はグループで身体的特徴について話し合う 一学習者は身体的特徴の例を書き留める 方法: ディスカッション 質疑 応答		
【総括】	教師の活動: 教師は、骨格、身長、肌の色、髪の毛など、身体的特徴を通して、授業をまとめる 学習者の活動: 学習者は、質問に答え、身体的特徴の例をあげる 方法: 質疑応答		

授業者自筆の文書を元に筆者作成

また、「衛生・トイレ」の授業に関しては、6年生の健康教育の3項目目に「6.15 衛生」「6.15.1 トイレ」の内容が提示されていた。「6.15.1.1 トイレの種類を識別する、6.15.1.2 2種類のトイレの清掃用具を識別する、6.15.1.3 トイレと便所の清掃」の3つの項目が提示されており、その1項目目の授業だったことがわかる。知識として「トイレの種類：水流式トイレと汲み取り式トイレ研磨剤、トイレ用洗剤、灰、トイレ用ブラシ、ほうき、ちりとり、水洗タンクのほこり取りと拭き取り用の布・トイレの清掃（環境に優しい清掃用具を使用）」、技能として「トイレと便所の清掃」、価値として「清潔なトイレのありがたみ、・トイレの清潔さ・トイレの使用と清掃における安全意識」があげられていた。当該授業も5年生の授業と同様に、シラバスにそって計画されていたことが明らかとなった。

#### 4. まとめと今後の課題

本研究は、情報が極めて少ないアフリカ・ザンビア共和国の最近の教育の現状とともに、小学校における教育、および家庭科の授業実践の状況を明らかにすることを目的とした。2023年9月にザンビアの首都ルサカの小学校2校を訪問し、家庭科の授業を参観、ザンビア大学学校教育学部において、ザンビアの教育、家庭科に関する資料を入手した。その結果、以下の6点が明らかとなった。

- 1) 小学校1～4年生の必修科目である「クリエイティブとテクノロジー学習(CTS)」には家庭科関連分野が含まれ、5～7年生は「家庭科(Home Economics)」が必修であった。
- 2) 中等教育(中学校・高等学校)の「職業キャリアパス」では生徒が選択して学べる「家庭科とホスピタリティ(HEH)」コースが設けられていた。
- 3) ザンビアでの家庭科の発展にはキリスト教布教者が大きく関わっていた。
- 4) 家庭科は、食品と栄養、家庭経営、健康教育、裁縫と工芸の4領域であった。

- 5) 1クラスの人数は多く、60名以上のクラスで一人の教師が授業を行う例もあったが、生徒は熱心に学習に取り組んでいた。
- 6) 小学校家庭科の授業は国のシラバスに忠実に授業計画が作成され、授業計画にそって授業が実施されていた。  
今後は、中等教育の授業実践についても、詳細を報告したい。

## 謝辞

本研究にかかる訪問調査においては、ザンビア大学学校教育学部の Malama Esther 氏に多大な協力を得た。心より感謝申し上げます。

## 文献

- 1) 外務省 HP「アフリカ ザンビア共和国 一般事情」<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/zambia/><https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/zambia/> (2024年9月10日閲覧)
- 2) Curriculum Development Centre “Zambia Education Curriculum Framework 2015” 26,2015
- 3) 前掲ホームページ1)
- 4) 牧貴愛、下田旭美、塚脇涼太「東部アフリカの教師教育者の応募要件：マラウイとザンビアの比較」広島大学大学院人間社会科学研究所紀要 3 280-286、2022
- 5) 與津妙子「ザンビアにおける保育・幼児教育の政策的展開と実態」比較教育学研究 2021 (63)、73-88、2021
- 6) 中和渚「ザンビア・ルサカにおける都市部の就学前教育で実施された数学授業の現状と課題」アフリカ教育研究 9 2018  
中和渚「ザンビアにおける教材開発を重視した授業研究の課題に関する考察—かけ算の理解を主題としたケーススタディ」数学教育学研究 26 37-46、2016
- 7) 高坂将人「ザンビア共和国における概念地図法を用いた理科と数学の関連性に関する実態調査」理科教育学研究 56 (2)、161-171、2015  
広島大学大学院人間社会科学研究所：国際数理工術教育協力実践プロジェクト研究センター『ザンビア特別教育プログラムの成果と今後の可能性』2022など
- 8) 前掲書 2)

- 9) 前掲書 2) pp.30-33
- 10) 前掲書 2) pp.33-38
- 11) 前掲書 2) pp.38-46
- 12) MINISTRY OF EDUCATION, SCIENCE, VOCATIONAL TRAINING AND EARLY EDUCATION Republic、HOME ECONOMICS SYLLABUS GRADE 5-7, 2013
- 13) 前掲書 9) p.6

受付日 令和 6 (2024) 年 9 月 13 日 採用日 令和 6 (2024) 年 12 月 2 日

<キーワード>

ザンビア共和国 教育 家庭科 小学校